

三〇年六月二十一日午前十時三十分頃

今日は実家の父の命日だと思つてソレ時

一本の電話がかかりました

第一開発の三上さんという方からでした

この様な電話は今までもたくさんかかろて来てお

すぐと切つていたのでありますが三上さんの電話の感じは私には

めづらしく電話のあつた事主人に伝へますと切りました

六月二十五日午前中に三上さんから現場見送りをして下さる

電話でした。その話をして下さるうちに六月二十五日

四時に会う事になりました

暑の中二人で来て下さる事になりました私達も会社の事

社長さんの字真面目に見たりして下さる感じが

社長さんやさしく下さる物と私が言うると二人一語に

声をそろえられた様

社長はソレ人ですと言つたのに私は感動してしまつた。

この様な社員がソウのかりろと思え
山野井さん 三上さんとお願ひする事になりました。

社長様にお手紙をいじ笑礼かと思ふたのですか
ハニ才の老人と思え聞え琉して下さい。

高橋幹子

社長様
第一開発

平成三〇年七月二十四日